



# 南町小だより

つよく かしく あたたかく

平成28年5月31日

校長 福田 俊彦

## 「ふれあい月間」の取組

校長 福田 俊彦

5月16日（月）から19日（木）まで行った6年生の岩井移動教室でのことです。南町小学校では、「ありがとう」を届けますの取組のひとつとして、心をつなぐ笑顔であいさつの指導を継続しています。移動教室での6年生の姿に、このことを見ることができました。そして、岩井の方々からあいさつのすばらしさについて、お褒めをいただきました。南町小学校の最高学年としての姿は、これからの学校生活においても、下学年の手本となることでしょう。また、6年生が出かけている間、よりよい学校生活を創ることにリーダーシップを発揮した5年生の行動について、先生方から話を聞くこともできました。今回の経験は、5年生にとって、来年度の自分たちの姿を見る一場面になったことと思います。子供が自ら目的に向かって行動していく場面として、挨拶の意味を考える機会を設けるとともに、時と場に応じた挨拶ができることを期待していきます。

さて、6月は「ふれあい月間」です。南町小学校では、年3回のふれあい月間（6月、11月、2月）を核として、年間を通して「自分の大切さととともに他の人の大切さを認められる行動や言葉遣いができる子供を育てる」指導を積み重ねています。学校生活には、人と人が関わる場面が多様にあります。学級・学年の中で。異年齢集団活動の中で。地域の方々との中で。ふれあい月間では、人との関わりについてこれまでの自分の行動を振り返り、がんばりやよさを確認します。そして、これから自分はどのように行動したらいいか決めます。なぜそのような行動をしたらいいのか考えます。6月の取組の重点は、「心をつなぐ笑顔であいさつ」と「心あたたまるすてきな言葉遣い」です。心をつなぐあいさつとは。心温まる言葉遣いとは。どのような時にどのようなあいさつを、言葉遣いをするのがいいのか。全校であいさつと言葉遣いに取り組むことは、他者との関わりの中で子供をはぐくむ大きな力となります。この取組を受け、授業で、全校朝会の講話や昼の放送で、更に考えを深められるようにしていきます。

子供が自ら学校生活を創っていく過程では、うまくいくこともあります。うまくいかないこともあります。どちらも子供にとって大切な学びの場です。うまくいったことは、続けられるように。更に、よりよくなるように。うまくいかなかったことは、どのように変えればいいのかみんな考え、行動に結びつくように。振り返りの場を一人一人の子供がもてるようにしていきます。

ご家庭におかれましても、「ふれあい月間」の取組について、お子さんと話す機会をもつていただければと思います。今後とも、皆様のお力添えをお願いいたします。